

現代文化は、まちの魅力を高め、観光者・起業者・移住者を増やす ～人(クリエイター、運営者)と施設の個性を連携する金沢市方式～

都市研究センター研究員

久繁 哲之介

1 はじめに～本研究の要旨

アニメや現代美術など現代文化を、まちづくりに活用して、まちの魅力を高める地方都市が増えている。

まちづくりに現代文化を活用する先進地は広島市といわれる。広島市現代美術館は、日本で初めて公立の現代美術館として1989年に開館した。美術館の周囲は無料で鑑賞できる「野外彫刻ゾーン」としている。文化施設に「有料ゾーンと無料ゾーンに区分け」する方式も広島市による先進的な取組である。

広島市現代美術館の北側には、広島市まんが図書館もある。日本で初めて公立の「まんが専門」図書館として1997年に開館した。まんがと美術の連携により、現代文化の価値をさらに高めている。

両施設は、標高約70mの比治山公園の頂上に整備された。まんが図書館と美術館という箱物は、公園整備と連携して、訪れる価値を高めている。これは「ウォークアブルまちづくり」を意図しており、まるで公園に行くような気持ち・服装で、美術館へ気軽に来てもらおうことを狙っている。以上の広島市による先進的な取組を後に、地方都市の多くが追随し始めた。

例えば、金沢市は「金沢21世紀美術館」という名称の現代美術館を2004年に開館する。まちに開かれた公園のような美術館というコンセプト、有料ゾーンと無料ゾーンの区分け等、広島市現代美術館の作法を多く継承している。

入館者数は開館2年目の2005年から10年連続で150万人前後という盛況が続く。北陸新幹線が開業した2015年には237万人、ミュージアム年間入館者数が日本一となる。

図1)ミュージアム年間入館者数2015年TOP3

| | | |
|----|----------------|-------|
| 1位 | 金沢21世紀美術館(石川県) | 237万人 |
| 2位 | 国立新美術館(東京都) | 229万人 |
| 3位 | 国立科学博物館(東京都) | 222万人 |

出典)総合ユニコム社公式Web

一方、広島市現代美術館は2018年の入館数が約14.3万人。決して少ない数ではない。金沢21世紀美術館が広島市より人口4割未満の都市にありながら、入館者数が10倍以上、日本一であることが驚異的なのだ。入館者数だけで成果を比較する訳ではないが、両都市の差は何に起因するのか？

今年(2023年)2月、アニメ界のアカデミー賞と呼ばれるアニメ賞で2冠に輝いたアニメ作品「ONI～神々山のおなり」は、金沢市のアニメスタジオ「トンコハウス」で制作された。これを機に、両都市の差は「人の活用」にあるという視点で研究することにした。

本研究は、次の手順で進める。

2章は、金沢市が現代文化を「人の活用を重視」して政策化した背景について、2人のクリエイターを例に考察する。この考察から、伝統文化と現代文化の違いが垣間見える。

そこで3章は、伝統文化と現代文化の違い

を、まちづくり・地方創生との関係性に着眼して考える。

4章は、3つの都市の現代美術館を例に、まちの魅力を高める方法を考察する。

5章と6章は、大都市から金沢へ移住した2人のクリエイターと、彼らが運営する施設との連携性を考える。

7章は、現代文化の師匠の存在が、若者の起業・移住を促す動向を考察。8章で纏めを行う。

本研究の構成(目次)は次の通りである。

- 1 はじめに～本研究の要旨
- 2 人(クリエイター)を活用する政策
- 3 伝統文化と現代文化の違い
- 4 3つの都市の現代美術館
- 5 蓑豊氏と金沢 21 世紀美術館
- 6 宮田人司氏と金沢未来のまち創造館
- 7 若者の起業・移住を促す政策
- 8 おわりに～人が集まる街の魅力とは

2 人(クリエイター)を活用する政策

2023年2月、アニメ作品「ONI～神々山のおなり」が、アニメ界のアカデミー賞と呼ばれるアニー賞で2冠に輝いた。ONI～神々山のおなりは、金沢市のアニメスタジオ「トンコハウス」で制作された。トンコハウスを日本で運営するトンコハウス・ジャパンが東京から金沢へ2019年に「法人ごと移転。社員・家族ごと移住」してきた経緯は、まちづくりや地方移住を推進する上で示唆に富む。

人、施設(箱物)、文化の3つに分けて以下に記す。

人の話。トンコハウス・ジャパンの共同代表

である宮田人司氏は1998年、世界で初めて着メロのダウンロード事業を手掛けて新たな市場を創造するなど著名なクリエイターだ。宮田氏は2001年から毎年、金沢市の事業に関わるうちに、金沢の魅力に惹かれて2010年、家族とともに東京から金沢へ移住する。宮田氏が金沢へ移住すると、彼を慕う若きクリエイター約30人が金沢へ移住し、宮田さんのサポートを得て、実に17社が起業することになる。宮田氏の存在が(彼を慕う)若者の起業・移住を促したことは、起業・移住の政策として参考になる。

施設(箱物)の話。アニメーションスタジオ「トンコハウス」は築160年の空き家だった町家をリノベーション(以下、リノベ)した金沢市の事業だ。また、宮田氏は「金沢未来のまち創造館」という起業家支援施設の運営にも関与している。こちらは、廃校をリノベした金沢市の事業である。

文化の話。アニメなど現代文化の振興が「伝統文化のまち金沢で起きた」ことは興味深い。金沢市の現代文化政策は、現代美術館を21世紀初頭に開業させる計画に始まる。だが、伝統文化のまち金沢の市民から、現代美術館に否定的な声上がる。そこで金沢市は、現代美術館を「金沢21世紀美術館」という名称で2004年、開業にこぎつけた。金沢21世紀美術館の入館者数は開館2年目の2005年から10年連続で150万人前後という盛況が続く。北陸新幹線が開業した2015年には237万人、ミュージアム年間入館者数が日本一となる。増えた90万人弱の多くは北陸新幹線に乗車した観光者と思われる。金沢21世紀美術館の成功により、金沢市に現代文化が根付く風

土が醸成されたのだろう。

以上より、次の示唆を導くことができる。地方都市は、現代文化の「**クリエイター(人)の活用を重視**」して、クリエイターと継続的な協働関係を築くことにより、次の成果を得て、地方創生を実現できる。

- 1) 観光者、起業者、移住者が増える
- 2) 空き家・廃校など遊休不動産の活用が進む

クリエイター(人)の活用を重視する意図は、従来の文化政策は「施設(箱物)づくり」に偏重する傾向が強いことにある。

美術館・博物館などミュージアムや音楽ホールの建設に大金を投じた自治体は少ない。だが、それらの多くは利用度が高くない。観光者、起業者、移住者の増加に貢献していない。原因は「箱物などハード偏重で、ソフト不足にある。ソフト不足は人(クリエイター、プレーヤー)の育成で解決すべき」と言われる。

そんな中、金沢市は「現代文化のソフトを創造するクリエイター(人)を重視する政策」を採用した。この政策には2つの特徴が見られる。

まず、人(クリエイター、運営者)と施設の個性を連携させて、施設に明確な個性が創造されている。これを「**金沢市方式**」と呼ぶことにする。

次に、人(クリエイター、運営者)に重要な役割・ポストを与えて、ユニークな発想・活動を促す。その成果の範囲は文化を超えて、まちの魅力を高めること(まちづくり)に寄与している。

例えば、金沢 21 世紀美術館の初代館長である養豊氏は、金沢市で助役という No2 のポストにも就いていた。これは自治体の人事では珍しい。自治体の多くは、美術館・博物館など

ミュージアムや音楽ホールを、図書館と同様に(本庁組織ではない)教育委員会の所管に置く。ミュージアムの館長は、教育委員会という組織で、文化・教育的な視点で働く。ミュージアムなど豪華な施設(箱物)も、文化・教育的な視点でのみ活用されがちで、まちづくりに寄与できるケースは少ない。

一方、金沢市は金沢 21 世紀美術館の初代館長が助役として、都市・まち全体を成長させる視点で働いた。両者の視点・視座の違いが、まちづくりへの寄与度の違いを生む。

3 伝統文化と現代文化の違い

宮田氏は東京からの移住者、養氏は大阪からの移住者だ。ここに、現代文化が伝統文化より、まちづくりに活用しやすいメリットが垣間見える。

伝統文化と現代文化の違いを、まちづくり・地方創生との関係性に着眼して考察しよう。

まちづくり・地方創生に、文化を「継続的に、常設展として」活用するには、演者(クリエイター)が「地元出身、あるいは郷土ゆかり」の人物であることが求められる。なぜなら、地域性が薄い(全国どこでも集客できる)一流作品は、コストが非常に高く、大都市の大規模な文化施設でのみ活用されるからである。

地元ゆかりの著名なクリエイターが存在しない地域では「豪華な施設(箱物)を建設したが、展示するソフト(作品)が無い」という、ハード偏重な課題が顕在化してしまう。

本来、展示するソフト(地元ゆかりの著名なクリエイター)が少ないなら、豪華な施設(箱物)を建設してはいけないのだ。

では、展示するソフト(地元ゆかりの著名なクリエイター)が少ない地方都市は、文化政策

をどのように進めればよいのか？

現代文化を活用すればよい。伝統文化より現代文化を活用すべき理由は主に2つある。

第一に、伝統文化のクリエイターは多くが、過去の人である。一方、現代文化のクリエイターは多くが、活躍中の人だ。協働をもちかけてノウハウを蓄積したり、移住してもらい地元ゆかりの人物になってもらうことができる。金沢市に2人の著名なクリエイターが移住した経緯を5章と6章で考察する。

第二に、伝統文化は、その道の厳格な作法・ルールに基づく。一方、現代文化は自由度・多様性が高いので、異分野と連携しやすい。異分野との連携により、多様な価値を創造できる。価値の創造パターンは4章で考察する3つの都市の現代美術館で見られる次の2つが多い。

- ①地域性や自然と連携した美術館という建築物が価値になる
- ②まんがやアニメなど異分野との連携で価値を高める

4 3つの都市の現代美術館

3つの都市の現代美術館(広島市現代美術館、奈義町現代美術館、十和田市現代美術館)を例に、まちの魅力を高める方法を考察する。

4-1 広島市現代美術館

広島市現代美術館は、日本で初めて公立の現代美術館として1989年5月に開館した。設計者は黒川紀章氏。

標高約70mの比治山公園の頂上に建設された美術館から、広島市中心部を見渡すこと

ができる。春は桜の名所となる自然と調和(連携)した建築物の周囲は、無料で鑑賞できる「野外彫刻ゾーン」としている。

このように、現代美術館の多くが、公園内など自然豊かな場所に建設し、有料ゾーンと無料ゾーンに区分けして、無料ゾーンだけでも楽しめる施設構成になっている。この構成は、広島市現代美術館から生まれ、その意図は、まるで公園に行くような気持ち・服装で、美術館へ気軽に来てもらおうことにある。

図2) 広島市現代美術館



出典) 広島市現代美術館公式 Web

図3) 広島市現代美術館「野外彫刻ゾーン」



4-2 広島市まんが図書館

比治山公園には、広島市現代美術館の北

側に、広島市まんが図書館もある。日本で初めて公立の「まんが専門」図書館として 1997 年 5 月に開館した。

図2で分かるように、比治山公園は広島市中心部と京橋川で隔てられた立地にある。豊かな自然と眺望に恵まれながら、回遊性に課題があった。

そこで広島市は「比治山芸術公園基本計画」を策定した。広島市現代美術館と広島市まんが図書館を整備して、比治山を芸術公園と位置付けた。

まんが図書館と美術館という箱物は、公園整備と連携して価値を高めている。また、まんがと美術の連携が現代文化の価値を高めている。先述した「有料ゾーンと無料ゾーンの区分け」を含め、広島市は現代文化を、まちづくりに活用する先進地といえる。

図 4) 広島市まんが図書館



4-3 奈義町現代美術館

岡山県の奈義町現代美術館は 1994 年 4 月、周囲を竹林に囲まれた自然豊かな場所に開館した。クリエイター(作品展示者)は以下 3 人に限定され、その作品を半永久的に展示する施設として、建築家の磯崎新氏による連携的な設計とするコンセプトで建設された。

このコンセプトは「箱物行政」へのアンチテーゼでもある。これを奈義町現代美術館公式 Web「建物紹介～執筆者:磯崎新氏」より引用する。

「この美術館では従来の美術品と展示空間の関係が逆転している。これまで、美術館には作品を展示するギャラリーがあり、他の場所から運ばれた絵画や彫刻がそこに展示され、一定期間を経て持ち去られるという展覧会の型を繰り返すことになっていた。ところがここではアーティストの作品そのものとして構想された空間が最初があり、建物はそれを覆うシェルターにすぎない。(中略)これが、岡山県、奈義町という全国的にはほとんど無名の町に誕生することは、今日、地方自治体が“箱物”文化施設を無造作に乱立させているなかで、その企画のユニークさがとりわけ注目されることでしょう。

(中略)あらかじめ 3 人の作家、荒川修作、岡崎和郎、宮脇愛子に、これまでの美術館のギャラリーでは収容不能の作品を構想してもらい、それを空間化し、建築にまとめました。」

図 5) 奈義町現代美術館



出典) 奈義町現代美術館公式 Web

4-4 十和田市現代美術館

図 6) 十和田市現代美術館



図 7) 十和田市現代美術館「アート広場」



出典) 十和田市現代美術館公式 Web

青森県の十和田市現代美術館は「Arts Towada」計画の中核施設として、2008年4月に開館した。設計者は西沢立衛氏。作品毎に一つの展示室を設けて「外から見える」ように造る。各展示室をガラス通路で繋ぐことで、美術館が一つの街のように見える等、建築との連携が価値を創造している。

Arts Towada とは、官庁街通りの遊休不動産を活用して、エリア全体を美術館に見立てた「まちづくり」計画である。美術館向かい側の旧税務署跡地は「アート広場」とする等、現代美術館と公園の整備が連携している。

4-5 3都市の人口と観光

3つの地方都市(広島市、奈義町、十和田市)を考察した。現代美術館を活用する経済効果・まちづくりの成果は、どうなのか？

まず3都市の人口(2022年)を比べてみよう。政令指定都市の広島市は約118.6万人。十和田市は約6.0万人。奈義町は約5800人。

現代美術館の入館者を仮に、地元市民に限定すると、政令指定都市の広島市は相応の入館者を期待できる。だが、十和田市と奈義町は地元利用者だけでは収支があわない。観光客に期待せざるをえない。

次に3都市の観光状況を整理しよう。広島市には原爆ドーム(平和記念公園)、隣接する廿日市市には厳島神社(宮島)、という2つの世界遺産がある。近くに、尾道という著名観光地もある。いずれもJR山陽本線上にあり、移動も便利。新幹線のぞみ停車駅の広島駅を起点に、3都市セットで宿泊型の観光者は非常に多い。この観光者が、ついでに現代美術館・まんが図書館への来訪が期待できる。現代美術館の観光的な位置づけは「ついでに来てもらい、回遊性が高まればいい」のだ。

一方、十和田市と奈義町は近隣に著名な観光地は少なく、東京など大都市からのアクセスも良くはない。現代美術館の観光的な位置づけは「メインの目的地になり、美術館周辺の飲食店・宿泊施設に波及効果を生む」ことが期待される。

地方小都市の現代美術館は、遠方から集客できるメインの目的地になれるのか？

十和田市と奈義町の現代美術館の入館者数、経済効果を探ろう。

4-6 十和田市現代美術館の経済効果

十和田市現代美術館の入館者数は平成20年度から22年度までの3年間、17万人～18万人と安定している。人口6万人の約3倍である(出典:十和田市データブック平成25年版)。

令和元年度の入館者数は約16.1万人で、内訳は次のとおり。県外からが67%、うち海外からが6.3%。

入館者全体の63%である10.1万人が宿泊しており、県外来訪者の94%(63/67)が宿泊型の観光客と推測できる。市全体の同年度宿泊者数は33.2万人であり、入館者の宿泊者10.1万人は市全体の30%を占める。宿泊施設は大きな恩恵を得ている。

入館者全体の86%が十和田市内で食事をしている。飲食店も大きな恩恵を得ている。(出典:十和田市現代美術館を中核とした十和田市文化観光推進拠点計画)

4-7 奈義町現代美術館の入館者数

奈義町現代美術館の入館数は、開館初年度の1994年度が過去最高の約3.9万人。人口0.58万人の約7倍である。その後は2万人前後が続き、2021年度の約2.8万人はコロナ禍にありながら過去2番目に多い。

(出典:奈義町現代美術館 コロナ禍も健闘 SNSで話題、若者の来館増:山陽新聞デジタル|さんデジ(sanyonews.jp))

4-8 広島市現代美術館の入館者数

広島市現代美術館の入館数は、開館初年度の1989年度が過去最高の約32.8万人。人

口118.6万人の約0.28倍。その後は減少の一途を辿り、一時は10万人を割り込む。だが、近年は2018年の入館数が約14.3万人など14万人前後で安定推移している。

(出典:[新時代へ 広島市現代美術館30年 ヒロシマ 平和発信 在り方を模索 | 中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター \(hiroshimapeacemedia.jp\)](http://www.hiroshimapeacemedia.jp))

4-9 話題性確認消費

現代美術館の入館者数推移は2つのパターンに分かれる。

第一のパターンは、金沢21世紀美術館と十和田市現代美術館のように、開館からの人気・集客が長期に持続するもの。

第二のパターンは、広島市現代美術館や奈義町現代美術館のように、開館時の人気・集客が最高で、2年目以降は落ち込む。だが、打開策を講じることで再生に成功し、安定経営になるもの。

どちらが「普通、ありがち」か?

現代美術館に限らず商業施設など集客施設の「全般に、普通に」第二のパターンが起きやすい。

これを拙著『地域再生の罨』で「話題性確認消費」と定義した。開業初年度はマスコミ等の過剰な報道・広告で話題となり、消費者は「話題を確認」する目的で訪問する。ここ(初回の訪問)で、感動する体験が起きれば、リピート需要を創造できる。これが第一のパターンで、一部の勝ち組に限られる。

他の多くは、リピート需要を創造できず、第二のパターンとなる。その後が問題だ。打開策を講じて再生できる施設と、再生できずに閉店に追い込まれる施設に二極化が起きる。

4-10 消費は、物販・鑑賞型から体験型へ

再生できる打開策について、拙著は「物を売るから、体験を売る」への転換を提唱している。これは商業施設の場合で、美術館に転用すると「鑑賞型から、体験型」へとなる。

事実、4-8 の出典(中国新聞)によれば、広島市現代美術館は再生への打開策として、作品を制作する体験ができるワークショップや教室など体験型プログラムに注力している。

現代美術館を含む商業施設など集客施設を再生(活性化)する肝は、体験の創造・提供にある。

冒頭で問題提起した「金沢 21 世紀美術館の入館者が広島市や十和田市より 10 倍以上も多い」理由の一つに「体験型消費」がある。蓑氏の著書『超・美術館革命』の 100-113 頁に、その記述が随所にあり、主要部を以下に引用する。

「私が 26 年ぶりにアメリカから帰国して美術館に行くと、館内にいるのはだいたいご夫婦だけで家族連れがいない、子どもの姿が全然見られない。カルチャーショックというか、すごい違和感を感じた。アメリカでは、親に連れられて子どもと一緒に美術館が来るのが普通(中略)日本の美術館は、子どもはどうせ名作の価値なんか分からないし、来れば騒ぐに決まっているから来ない方がいいと敬遠するし、だいたい制服を着た厳めしい警備員が目を光らせていたのでは、子どもが来たいと思わなくなるのは当然だ。(中略)こちらが子どもの心を持つこと、子どもの視線を持つことが肝要だ。まず、建物の中が見えるようにする。これまでの美術館に子どもが来なかったのは、建物が密閉空間で

中に何があり、誰がいるか判らなかつたからである。(中略)金沢 21 世紀美術館の建物をガラス張りにした。(中略)お客さんにどう説明するか、子どもが相手のときはどうすればいいかなど、学芸員たちは絶えず勉強している。こういう努力によって、子どもたちも容易に作品と親しむことができる。」

5 蓑氏と金沢 21 世紀美術館

4章で、3つの都市の現代美術館を例に、行政計画・地域性・自然・建築・異分野との連携という視点で考察した。金沢 21 世紀美術館も、まず同じ視点で比較考察した上で、クリエイター(人)と施設の連携性を見てみよう。

5-1 金沢 21 世紀美術館

図 8) 金沢 21 世紀美術館



出典)ウィキペディア

金沢 21 美術館は金沢市中心部に、2004 年 10 月に開館した。

設計者は西沢立衛氏と妹島和世氏。まちに開かれた公園のような美術館をコンセプトに、芝生を敷き詰めた敷地の中央に「外から見える」ことを意識して、総ガラス張りの円形な建物

に4カ所の出入口を設けている。

金沢 21 美術館は周囲が公園と文化施設に囲まれている。西は市役所に接する。東は県立美術館で、その東に兼六園がある。南は金沢歌劇座。北は、しいのき緑地で、その西に中央公園、北に金沢城公園。公園と文化施設の連携(集積)度は国内随一と思われる。

金沢 21 美術館の立地は 1995 年に、金沢大学付属小中学校が他への移転で空いたものだ。また、しいのき緑地は県庁の移転後に整備されている。この2つの移転に伴い、石川県と金沢市が共同で 1995 年、都心地区整備構想検討委員会を設置して、美術館の建設が計画される。

問題は、どんな美術館にするか。この経緯と結果を、当時の金沢市長である山出保氏の著書『まちづくり都市金沢』92 頁より引用する。

「一般に県庁所在市では、県と市が美術館を持っており、文化都市金沢が施設をつくることに、ためらいはありませんでした。問題は、どんな美術館にするかでした。案の定、市民のあいだに「歴史伝統のまちに現代美術館は似合わない」という反対意見が相次ぎました。開館準備のために収集をはじめた作品をあげつらう声も出て正直、私は対応に苦慮しました。(中略)このようなむずかしい事情もあって、美術館の名称は「現代美術館」ではなく「金沢 21 世紀美術館」としてオープンしたのです。(中略)初代館長、蓑豊氏の精力的な活動により、入館者数に恵まれ、市民の批判の声もしだいに小さくなっていきました。」

5-2 美術館と館長(施設と人)の個性を連携

蓑氏は金沢 21 世紀美術館の初代館長か

つ、金沢市で助役という No2 のポストにも就いていたが、就任経緯を探ろう。蓑氏の著書『超・美術館革命』27~28 頁から引用する。

「山出さんは「石川県立美術館は伝統的な名品を集めた本格的な美術館で、しかも、この土地の至近距離だ。それなら、こちらの方は近現代を対象にした庶民派美術館で行こう」(中略)私が山出市長に招かれて美術館の初代館長として金沢に来たのは、開館する前の 2003 年 4 月だった。当時私は大阪市立美術館の館長を務めていた(中略)山出さんは「庶民派美術館を興すのだから、学者みたいな館長より行動派の館長がいい」と私に白羽の矢を立て、自分でいうのも何だが、三顧の礼をもって迎えられた」

山出氏は、金沢 21 世紀美術館という施設に、県立美術館と差別化できる個性を求め、施設の個性と一致(連携)する個性をもつ館長(人)を選んだ。三顧の礼をもって迎える館長には、助役というポストも用意する等「自由裁量と責任」をセットで与えて、創造的・精力的に働いてもらう。

金沢 21 世紀美術館の入館者数がミュージアムで日本一になる成功要因の一つに、この「人(クリエイター、運営者)と施設の個性を連携」がある。

この「金沢市方式」を、宮田氏のケースで考察を深めよう。

6 宮田人司氏と金沢未来のまち創造館

6-1 「金沢未来のまち創造館」2つの個性

金沢市は 2021 年 8 月、廃校となっていた旧

野町小学校を使い、起業や研究を支援する施設やテレワーク施設などの複合施設である「金沢未来のまち創造館」を開業した。

金沢未来のまち創造館は、施設の個性的な特徴として、次の2つがある。

第一の個性は(他の施設は殆どが“事務系”の顧客利用を想定するが)“ものづくり・コンテンツづくり系”の利用者を想定している。その推進の為、3Dプリンターやレーザー加工機など、研究・製造に必要な器具を備えた研究室がある。

第二の個性は(他の施設は殆どが“会社員”利用を想定するが)“スタートアップ・起業家”の利用を想定している。その推進の為、起業を支援・サポートできる者を、指定管理者に選んでいる。

指定管理者に選ばれた「一般社団法人 CLL」の代表理事は宮田氏だ。

図 9) 金沢未来のまち創造館



出典) 金沢未来のまち創造館 facebook

6-2 宮田氏と施設の個性を連携

宮田氏は2つの素晴らしい個性を有する。

第一に、実績が豊富なコンテンツ・クリエイターという個性。宮田氏は 1998 年、世界で初

めて着メロのダウンロード事業を手掛けて新たな市場を創造した。日本初の3D オンラインゲームを始めたことでも話題を集めた。

この個性は「金沢未来のまち創造館」第一の個性と符合する。

第二に、起業支援の実績が豊かな個性。宮田氏が 2010 年、家族を連れて東京から金沢に移住すると、彼を慕う若きクリエイター約 30 人が金沢へ移住した。後に、宮田氏のサポートにより 17 社が起業した実績を有する。

この宮田氏の個性は「金沢未来のまち創造館」第二の個性「起業家支援」と符合する。

宮田氏の存在が(彼を慕う)若者の起業・移住を促すこの事例は、起業・移住政策としても示唆に富む。7章で考察を深める。

6-3 クリエイターの祭典「eAT」

宮田氏は 2001 年迄、金沢に縁もゆかりもなかった。だが、2001 年より金沢市から継続的に協働をもちかけられて、これが移住する契機となる。

金沢市は 1997 年から毎年「eAT」というメディアアートとクリエイターの祭典を開催している。宮田氏はこのイベントに 2001 年から 2 年続けてゲストとして招かれた。2003 年から 2 年続けて実行委員を任され、2005 年には総合プロデューサーに抜擢される。

宮田氏が金沢市で「責任と自由裁量を発揮できる段階を踏むプロセスと、時期が 21 世紀初頭」であることは、養氏のそれと相通じている。

宮田氏は金沢に足繫く通ううち、金沢の人に愛され、金沢という街に愛着を抱き、2010 年には家族を連れて移住することを決断した。

6-4 起業支援に最も必要な「人の繋がり」

人が繋がる働き方は、様々な価値を創造する。例えば、この事例の施設(起業支援施設、テレワーク施設)に、利用者が最も期待するニーズは「新たな人・知と出会い、出会いを通してイノベーションの創造」と言われる。

具体例に、世界約 160 カ所でテレワーク施設を運営する「WeWork」がある。ここは施設毎にコミュニケーション・マネージャー(以下、CM)が配置されている。

CMは、利用者同士の交流を促すことに加え、利用者がビジネス創造に求める内容を聞き、助言をしたり、(利用者ではない)人の紹介を行う。

金沢市が指定管理者に、宮田氏が代表を担う CLL を選定した理由がここにある。つまり、17 社の起業をサポートした宮田氏に CM 的な役割も期待しているのだろう。

7 若者の起業・移住を促す政策

宮田氏が縁もゆかりもない金沢へ移住するまでの経緯と、移住後に彼を慕って金沢へ移住した若者の起業を支援した話は以下で確認できる。

[real local 金沢「eAT 金沢」って何だ?【後編】・reallocal | 移住やローカルまちづくりに興味がある人のためのサイト【地域情報】](#)

上記より「若者の起業・移住を促す政策」の参考になる箇所を引用する。

「イベント自体より、人にフォーカスしているところが金沢らしいし、山出さんの思慮深さなんだと思います。(中略)ゲスト同士が、eAT をきっかけに出会って、一緒に仕事をするよ

うになった話はざらで「eAT に呼ばれないと一流のクリエイターじゃない」という雰囲気までありました」

宮田氏が金沢へ移住後、彼を慕う若きクリエイター約 30 人が金沢へ移住した要因、彼のサポートにより 17 社が起業できた要因を5つに整理しよう。

- ① 宮田氏の卓越したスキル、面倒見のよい人柄
- ② 宮田氏が金沢で築いた「人の繋がり」
- ③ 施設やイベントより、人にフォーカスする金沢市の政策
- ④ 宮田氏がリーダーとして関与する金沢市の事業「eAT」による起業の促進
- ⑤ 何度か訪ねるうちに愛着を抱く街の魅力

8 おわりに～人が集まる街の魅力とは

伝統文化は、長い歴史の中で形成された「その道の厳格な作法・ルール」に基づく。価値も高いが、敷居(参入障壁)も高く、その道以外の異分野との連携が起きにくい。演者(クリエイター)側になるのは難しく、起業(仕事の創造)に繋がりにくい。消費は「鑑賞型」に止まる者が多い。

一方、現代美術やアニメ等の現代文化は、厳格な作法・ルールがなく、自由度・多様性が高い。異分野との連携という創造が起きやすい。演者(クリエイター)側になるのは難しくなく、起業(仕事の創造)に繋がりがやすい。消費は「体験型」に誘いやすい。

したがって、現代文化は「まちづくり政策や、移住・起業・観光政策」の成果を出しやすい。本研究はこれを金沢市の政策で考察した。

金沢市の政策は、施設(箱物)よりも「人を

活かすこと、人が繋がること」をフォーカスする。人(クリエイター)と施設の個性を連係する政策により、人・施設の双方に新しい価値が創造される。その結果、まちの魅力が高まり、人(観光者・起業者・移住者)が多く集まる。

広島市現代美術館公式 Web

奈義町現代美術館公式 Web

十和田市現代美術館公式 Web

ウィキペディア

2023 年 6 月 久繁哲之介

【参考文献】

山出保『まちづくり都市金沢』(2018 岩波新書)

山出保『金沢の気骨』(2013 北國新聞社)

養豊『超・美術館革命』(2007 角川 one テーマ 21)

吉見俊哉『現代文化論』(2018 有斐閣アルマ)

五味文彦『伝統文化』(2019 山川出版社)

久繁哲之介『地域再生の罨』(2010 ちくま新書)

文化庁「公立博物館における来館者数の状況」

十和田市データブック平成 25 年版

十和田市現代美術館を中核とした十和田市文化観光推進拠点計画

金沢未来のまち創造館 facebook

総合ユニコム社公式 Web

金沢 21 世紀美術館公式 Web

[新時代へ 広島市現代美術館 30 年 ヒロシマ平和発信 在り方を模索 | 中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター \(hiroshimapeacemedia.jp\)](#)

[奈義町現代美術館 コロナ禍も健闘 SNS で話題、若者の来館増：山陽新聞デジタル | さんデジ \(sanvonews.jp\)](#)

[real local 金沢「eAT 金沢」って何だ？【後編】 - reallocal | 移住やローカルまちづくりに興味がある人のためのサイト【地域情報】](#)

[町家発「ONI」の目に涙 アニー賞2冠・トンコハウス「受賞の瞬間こみ上げた」 | 社会 | 石川のニュース | 北國新聞 \(hokkoku.co.jp\)](#)

[トンコハウス寄付感謝状 | 山野ゆきよし日記 \(ameblo.jp\)](#)

[金沢市内で“カフェ”も計画中...アニー賞を受賞したアニメスタジオ・トンコハウスの堤監督が明かす \(石川テレビ\) - Yahoo!ニュース](#)

['19 記者レポート: 金沢・町家再活用 新産業呼び、窮地好機に / 石川 | 毎日新聞 \(mainichi.jp\)](#)